

関西見聞録

8月6日

土曜日

関西を元気に！

外国人のパワーを関西に！

関西を元気にするためには何が必要だろうか？お金・笑い・イベント・・・、様々なキーワードが思い浮かぶだろう。その中で我々が注目したのは、関西に来る外国人のパワーである。様々な事に興味を持ち、実行力がある。そんな外国人に、関西の元気をより多く知ってもらい、そして外国人の元気を関西に取り入れる事を目標として行っているプロジェクトに注目し、それを紹介する。

「Destination関西」

より多くの外国人に関西の魅力を知ってもらおうと、外国人向け観光パンフレットが平成22年5月、近畿経済産業局から発行されている。名前は「Destination関西」。内容は、「KANSAI」とは、どんな場所を指すのか、



↑提供: www.kansai-metl.go.jp/3-1toukou/destination/index.html



↑撮影: 近畿経済産業局通商部国際課投資交流促進課

行ってみたいトップ5

- 1位 本宮温泉郷
- 2位 近江八幡水郷
- 3位 熊野三山那智の滝
- 4位 一乗谷朝倉氏遺跡
- 5位 越前陶芸村

行ってみたいおもしろかったトップ5

- 1位 ミナミ界隈
- 2位 大阪城
- 3位 清水寺
- 4位 東大寺
- 5位 金閣寺

「領事館関係者に聞く 関西の魅力ある観光スポット」など、関西の観光資源を外国人目線で紹介している。もちろん表記は英語と日本語それぞれ発行されている。その中でも特に興味をそそられるのが、外国人に対するアンケートから作られた、行ってみたいおもしろかったスポット＆行ってみたいスポット＆ランキングである。(ランキンング内容は表1参照) このアンケートにより、外国人の関西(日本)に対するイメージや興味があるのが、今の日本人より、日本らしさを求め、ここに見受けられ、ここに「鍵」があると思ひ、インタビューを行

「この部署の主な役割は、海外企業の投資を関西に集め、関西を元気にする。ここで言う投資は、海外企業の支社などに関西に持つのもうことである。この冊子は、観光に訪れた外国人が、日本という土地の良さを母国に持ち帰ることで、その投資のきっかけになればという思いから、職員のアイディアによって生まれた。完成したパンフレットは、無料で関西の宿泊施設や観光地に配置。

作られた過程は？

発行は近畿経済産業局通商部国際課、投資交流促進課という部門である。お話を伺ったのは滝谷晶彰さん他3名である。

その効果は？

「このような観光パンフレットを公の機関から発行される事は大変珍しく、発行時のメディアの反応が大変良かった。また、その記事を見た人からの反応も良く、「今度、海外からのお客様が来るから、その人たちにプレゼントするために送ってほしいなどの問い合わせが多かった。」

インタビュー後



近畿経済産業局通商部国際課投資交流促進課のみなさん

関西ゴールデンルート

ゴールデンルート？

「ゴールデンルート」とはメジャーで人気のある観光スポットを回る旅行の行程をさす。旅行会社企画してパッケージとして組み立てており、旅行する国や地域の要所だけを極力急ぎ足で、効率的に見て回るルートになるため、最小限の旅費で多くのスポットを見て回ることができる。

学生に出来ること

例えば、外国人、特に中国人にとっての日本のゴールデンルートのひとつに、成田空港から入国し、東京周辺の観光スポットを巡ってから、箱根、富士山、名古屋等を経由し関西を観光し、関西国際空港から帰国するというルートがある。しかし、関西の観光だけでなく十分日本を味わうことは可能ではないか？

関西を元気に！ 私たちに出来ること

私たち学生が関西を元気にするために何が出来るのか近畿経済産業局の方々にお話を聞いた。

「今、町をよくしよう、町を活性化させようという事で色々な地域が地元にある資源を使っているのだけど、そこにもっと積極的に若い人たちが関わっていく必要があると思います。町の活性化、地域の活性化には若者が必要です。そう話す通商部投資交流促進課長の滝谷さんは過去に地域振興の問題を感じた経験からある。

「残念ながら各地域に共通して言えることは『若者があまり参加しない』。年齢のうかが集まると何がしようとするのかと考えが固くなる。だから若い人の柔軟な考えが必要なんです。実際にさびれていた町と大学生が一緒にプロジェクトを立ち上げて成功したケースもある。元は今どんな課題があるのか、どんなプロジェクト

私たち1人1人の小さな活動が
関西を元気にすることにつながる！

つまり、関西国際空港から入国し、関西周辺から帰国するという「関西ゴールデンルート」が作れるのではないかと、外国人に伝えることで「関西ゴールデンルート」の実現も近いと感じる。

クトが起きようとして、そこに積極的に参加してほしいです。しかし若者の意見を投入していくことを考えすぎず、最初が小粒でもいい。育ててあげてほしいです。また、「学校での学びは、もちろん大切なこと。でもその学びをどう役立てていくかを考えることも大切だ。学生の多くは『これがやりたい』というモチベーションを持つことで最大限の能力が発揮できるような。それが関西を元気にすることにつながる。」